

高齢者ケア 理解深めて

松山 福祉関係者が事例報告



パネルディスカッションで日ごろの活動について説明をする各会の代表者ら

患者や高齢者の相談援助などをするソーシャルワーカー間の理解を深めようと、「県ソーシャルワーカーデー2012記念大会」が14日、松山市三番町6丁目のコムズであり、活動内容や悩みなどを話し合った。

県社会福祉士会、県精神保健福祉士会、県医療ソーシャルワーカー協会が主催し、各会の会員約70人が参加。

各会の会長らがパネルディスカッションで実情や苦勞を説明。高齢化が進む離島で早期退院した高齢者と地域住民の関係を新たにづくり、元の生活に近づ

けている事例などが紹介され、参加者は熱心にメモを取っていた。

九つのグループに分かれての参加者間の討論では「相手がどのような人生を歩んできたかを考えて接する」「患者の気持ちに寄り添いたい」「病院などの組織や制度で悩むこともある」などと互いの知識や経験を伝え合い、関係性を深めていた。聴講した河原医療福祉専門学校の社会福祉科2年の中野翔梧さん(19)は「授業でソーシャルワーカーのことは習っていたが、専門家の視点が分かって良かった」と話していた。(竹下世成)